



「保養センター心づくしの演芸や主婦会の堀田さんの踊り、田中ばあちゃんらの踊り、塚本じいちゃんや鶴ばあちゃんの歌など、舞台のあく間もありませんでした」
——芳川組織部長のメモから。

三池主婦会、心をこめて敬老会

負けじと歌、踊りを披露

おじいちゃん、おばあちゃん来年も

三池主婦会が、年間行事の一つとして開催し続けている敬老会は、本当にささやかなもてなしではありませんが、真心のこもった行事です。

前日までの雨がうすくなったように晴れ上がり、参加者一同身も心も晴れれば、一路山麓の保養センターへと向かいます。

バスの中では謡曲を皮切りに、古い歌、新しい歌と、次々と出るうちに時は過ぎ、にぎやかで楽しい車中でした。

山麓保養センターに着いて席につくと、敬老会同志一年ぶりに逢ったうれしさが話にはあふまっています。

主婦会員の踊りにうっとりしている間から、敬老者自身若い者に負けじと踊りの披露や歌が、付

組織部長メモから
「あん人々来とらっさんが、どげんしたつじやろか」
「あんたが来ると思ったげん、私も来た」
「あんたも、いっちゃん変わりはなかな」
「また、来年もこんなできんばす」

今年参加出来なかったおじいちゃん、おばあちゃんも、来年はぜひお元気で参加出来るように祈っております。

おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気でいてください。そしてまた来年も、敬老会に参加して戴くことを念じております。

(右は主婦会提供)

荒尾市賞に

佐藤さん文化祭で

文化の秋。荒尾市でも文化祭が開催されました。そのなかの文芸部は、二十三日から三十日まで同市の福祉センターで、絵画、写真などとともに展示されましたが、狂句の部で、二十六分会の佐藤勉さん(妻・万田作業所)はみごと荒尾市賞に輝きました。

狂句の部では三十七人が応募、百数十句の中から佐藤さんの次の作品が最優秀句として選ばれたものです。

課題は「間違電話」

間違電話線に用のおとたろ

植木

これからの手入れは?



今年、または昨年植木の枝まげをした針金は、秋の肥培で木の幹や枝に食い込むようになります。今取りはずしてやりましょう。そして、なお思いうるようになっていない時は、新しくかけ直すようにして

「せんな」。長男のこのひとこと。我が家は、更に団結しました。人生はドラマです。いろんなことがあったが、子供たちは立派に成長しました。「おやじさん」を導きだしているよ、よろしくね。電話をかけた時、最後には必ずそう報告しますよ。ある意味では、子供たちの犠牲になり、それが報われているのかどうか……。不本意ではあるが、「貴方」何よりの贈物ではないですか。遠い、一本の道をひたむきに歩き続けた貴方。これからの人生は、貴方のものですよ。いつまでも。いつまでも。



私が主知っている人が見ていないかと、うか、周囲の目ばかり気にして、いたものです。

最近では、主人よりむしろ私の方が、出かけていく行事が多いため、主人も悲鳴をあげてくるみたいですが、家族ぐるみの共働きをしていたので、炊事・買い物が今ほど大切なことを思わなかった。

嫁いできて十五年

主婦会員

三池主婦会の組合員の方々が次々と定年退職され、主婦会の方々とともに社宅を出ていかれる。あれから十五年。私の、組合や主婦会の運動に対する意識が、まなぶをほはじめ、三池に交流を

「組織と私と、どっちが大切ね」とケンカが始まります。た、非常に悲しく、さびしい。思いがけられます。でも、婦人

デモや集会で、鉢巻をするこ

創作

定年退職の前日、ある会議に出席した貴方は、何時も同じ足どりで帰宅しました。しかし焼酎をのんで、何時もは固い歌が唄われない貴方が、「吹けば飛ぶよな……」と、音頭はすれのはやう歌を……。

わたしは、貴方が満足そうに唄うのを久し振りに聞きました。やはり労働からの解放は、人間としての「しわ」を一つふやすんですね。

——勤続三十年。

ずいっと要領が悪く、馬鹿正直で通してきた貴方。家はおるか一坪の土地も、とうとう「物」にできませんでしたね。しかし、そういう貴方を尊敬します。決して、負け惜しみではありません。定年にしては、背筋がしゃんとしてい

晩節 ばんせつ

小川開 左藤 みさ子

「うた声」で知り合い、結婚し



(この項田上 勇・記)